

平成 28 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

研究領域名	配位アシンメトリー：非対称配位圏設計と異方集積化が拓く新物質科学
領域代表者	塩谷 光彦（東京大学・大学院理学系研究科（理学部）・教授）
研究期間	平成 28 年度～平成 32 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、金属錯体における非対称配位圏の設計、合成、異方集積化法を開拓するための学理の構築とそれに基づく新しい物質科学の創成を目指す提案であり、時宜を得たものである。これまでの特定領域研究「集積型金属錯体－無機有機複合電子系の化学－」（平成 10～14 年度）、「配位空間の化学－分子凝縮、ストレス、変換場の創成－」（平成 16～19 年度）、新学術領域研究「配位プログラミング－分子超構造体の科学と化学素子の創製」（平成 21～25 年度）は錯体化学分野に大きな発展をもたらし、同分野において我が国が国際的優位性を確保することに貢献してきたが、本研究領域ではそれらでほとんど考慮されてこなかった金属錯体のキラリティーやアシンメトリーに着目し、ナノからマイクロサイズに至るマルチスケールでの異方集積化を目指しており、化学だけにとどまらない幅広い学問分野への波及効果が期待される。</p> <p>研究組織は、4 つの研究項目と 15 の計画研究により構成され、錯体化学を中心に十分な実績と豊かな国際経験を有する研究者が多く参画しており、優れた成果が期待できる。領域代表者のリーダーシップのもと、総括班や国際活動支援班が中心となり「融合バーチャルラボ」等の設置によって融合研究や国際共同研究を強力に推進する体制が構築されている。</p> <p>一方で、各計画研究課題の対象が多岐にわたるため、領域全体を繋ぐ有機的な連携を着実に実施する努力が望まれる。</p>